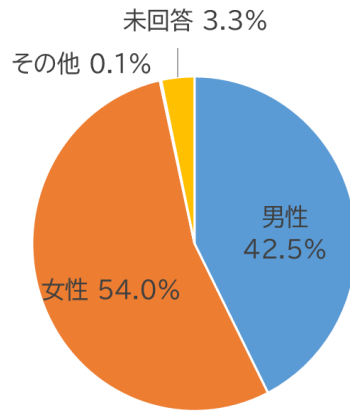


1 回答者の属性

回答者における男女の割合は、女性が54.0%、男性が42.5%であった。

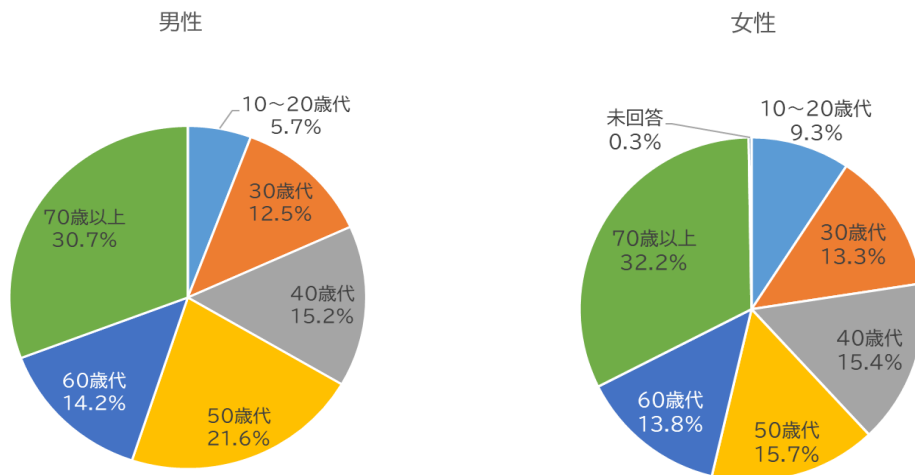
年代別では、10～20歳代の回答が少なく、50歳代から70歳以上が半数を占めるため、若年層の傾向より、50歳代から70歳以上の傾向が強く反映されているものと考えられる。

■ 性別



性別	回答数	割合
男性	296	42.5%
女性	376	54.0%
その他	1	0.1%
未回答	23	3.3%
総数	696	

■ 年代



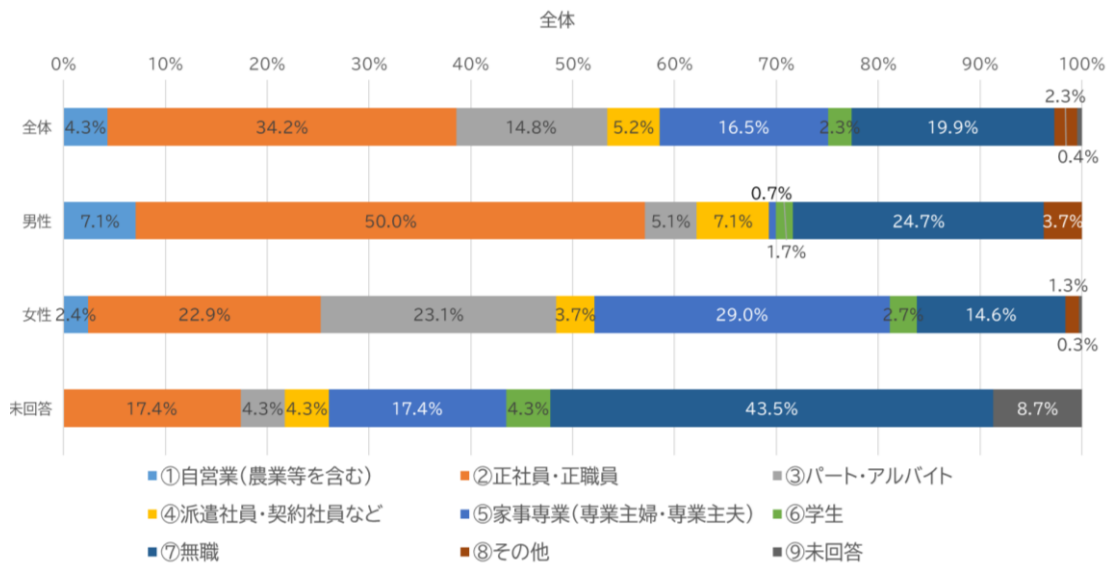
▼年代別(無回答のものを除く)

	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
10～20歳代	17	5.7%	35	9.3%
30歳代	37	12.5%	50	13.3%
40歳代	45	15.2%	58	15.4%
50歳代	64	21.6%	59	15.7%
60歳代	42	14.2%	52	13.8%
70歳以上	91	30.7%	121	32.2%
未回答	0	0%	1	0.3%
総数	296	100%	376	100%

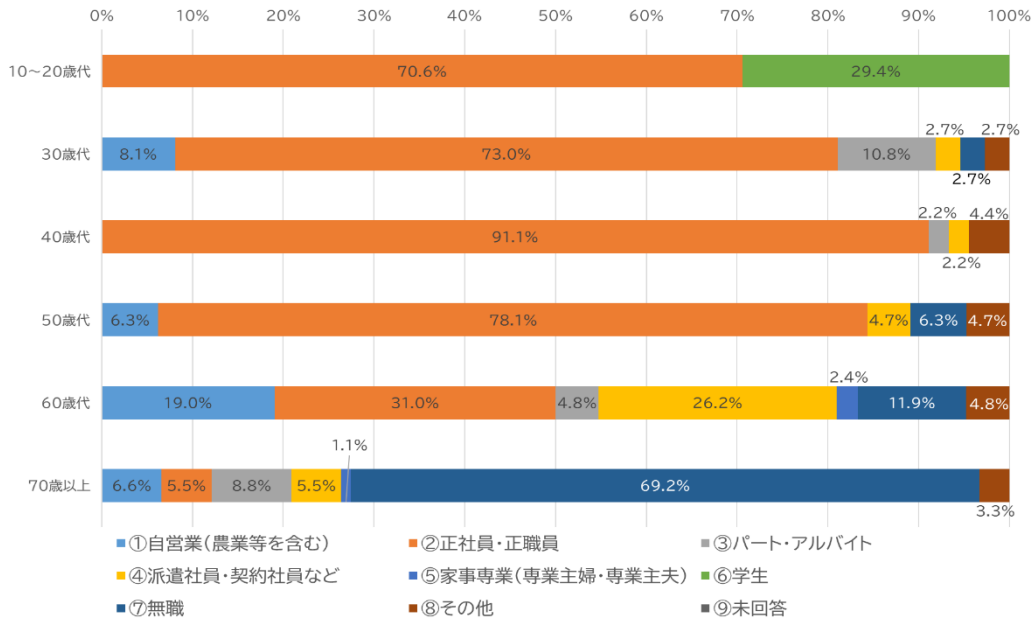
■ 職業の状況

全体では正社員(34.2%)が最も多く、次いで無職(19.9%)、家事専業(16.5%)と続いている。男女別では、男性は正社員が 50.0%と半数を占める一方、女性は家事専業(29.0%)、パート・アルバイト(23.1%)、正社員(22.9%)と分散している。

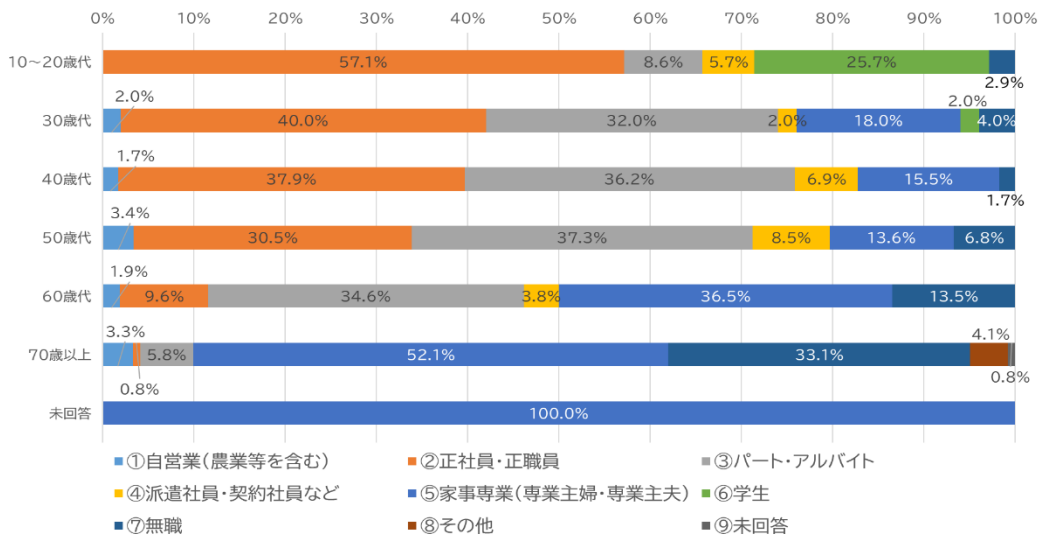
年代別では、男性は30歳代～50歳代で正社員率が高いが、60歳代で派遣(26.2%)、70歳以上で無職(69.2%)へとシフトしている。女性は30歳代～50歳代で、正社員・正職員、パート・アルバイトが約30%となっており、60歳代以降は、家事専業や無職の割合が急増する傾向にある。



男性年代別 職業



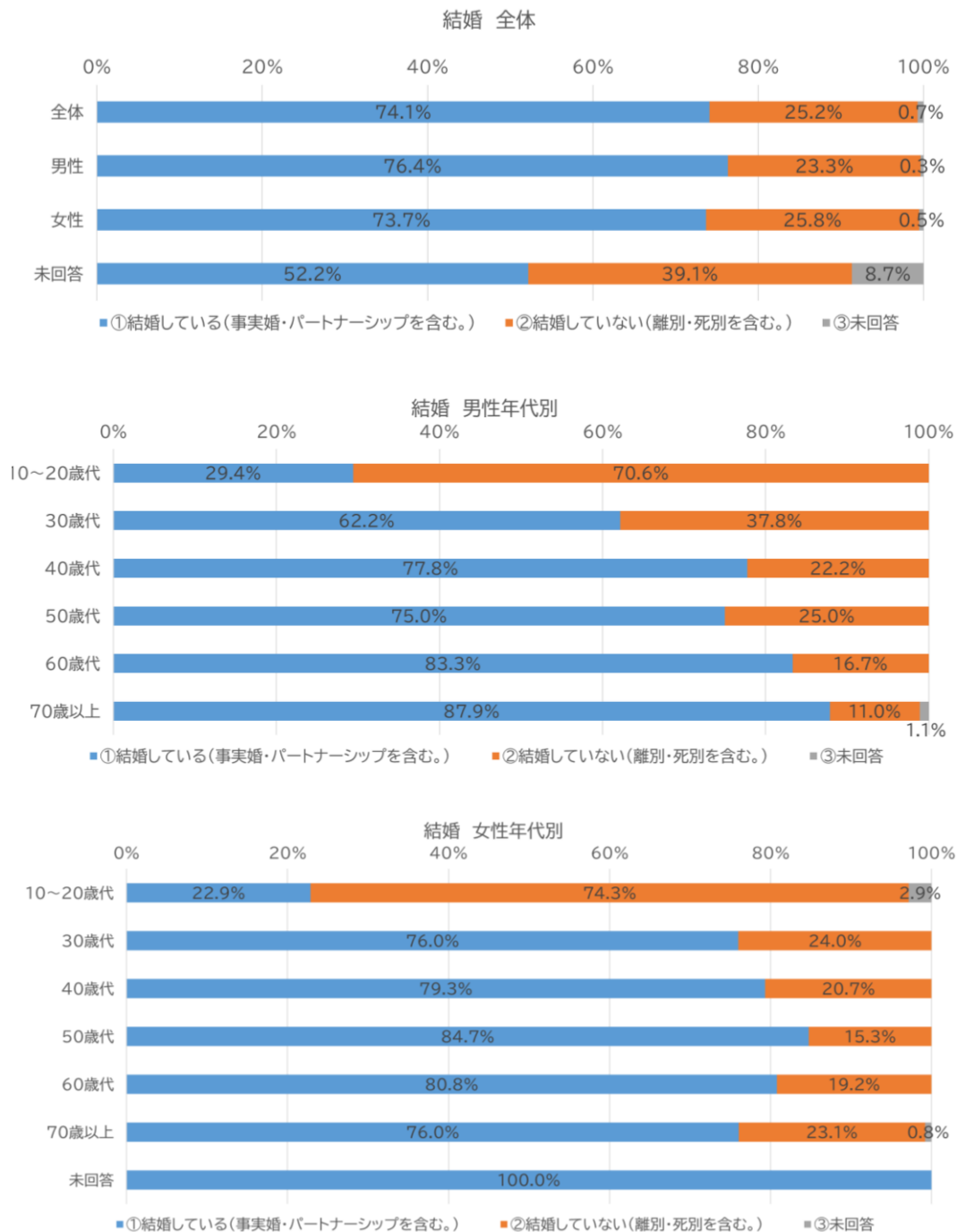
女性年代別 職業



■ 結婚の状況

全体では、「結婚している」が74.1%と大半を占め、「結婚していない」は25.2%にとどまっている。男女別でも大きな差はなく、男性が76.4%、女性が73.7%と共に70%を超えている。

年代別では、男性は10～20歳代で既婚率が29.4%だが、30歳代で62.2%へと急増し、70歳以上で最高の87.9%に達する。一方、女性は30歳代の時点で既婚率が76.0%に達しており、男性よりも早い段階で結婚を選択する傾向が顕著である。女性の既婚率は50歳代(84.7%)をピークに、70歳以上では76.0%へと下降している。

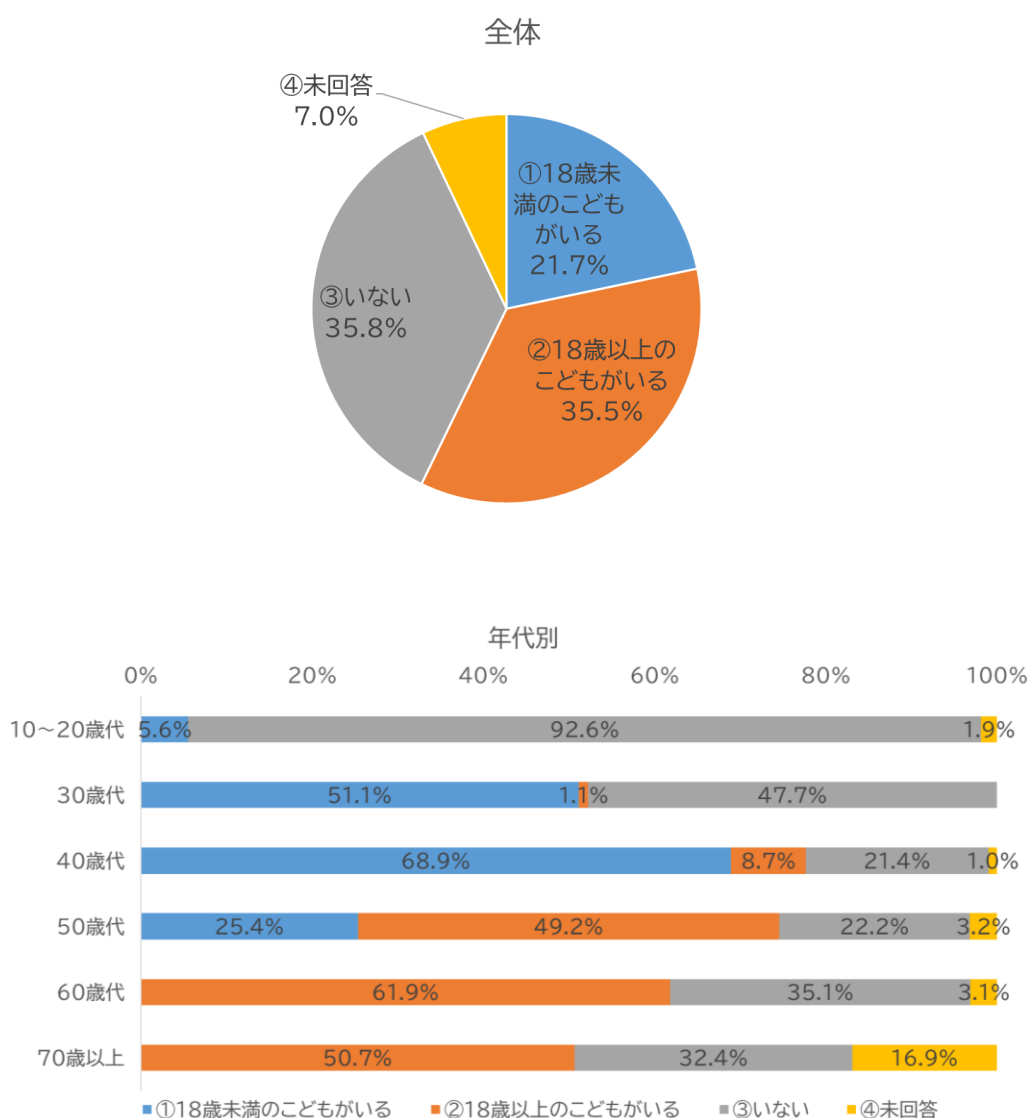


■こどもの状況

全体では、「こどもがいる」世帯が57.2%(18歳未満のこどもがいる:21.7%、18歳以上のこどもがいる:35.5%)と過半数を占めており、「こどもがいない」世帯は35.8%となっている。

年代別で見ると、ライフステージに伴う顕著な変化が確認できる。10～20歳代では92.6%が「いない」と回答しているが、30歳代から40歳代にかけては「18歳未満のこどもがいる」割合が51.1%から68.9%へと上昇し、子育て世代のピークを迎える。

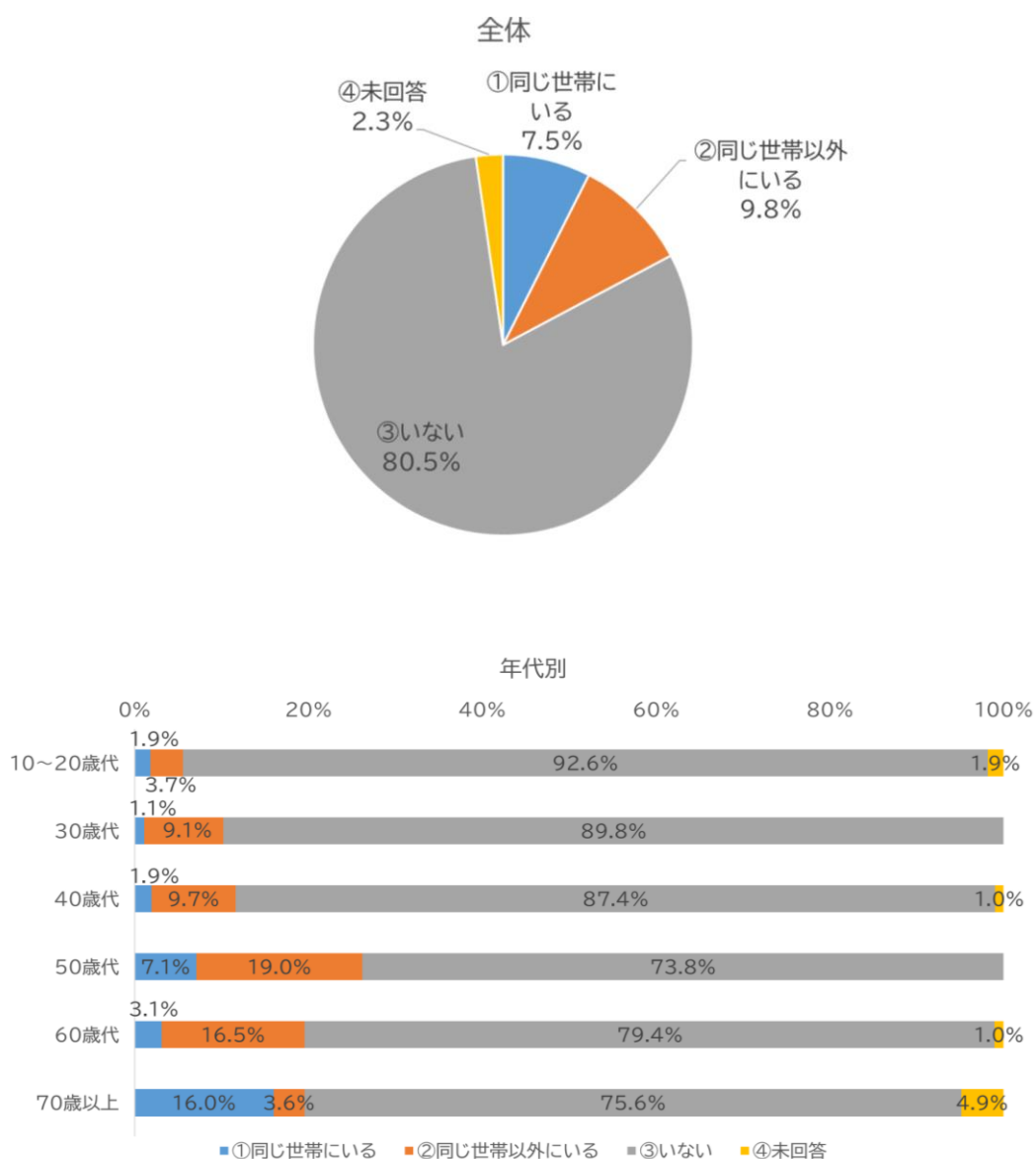
その後、50歳代を境に「18歳以上のこどもがいる」割合が49.2%へと急増。60歳代(61.9%)や70歳以上(50.7%)では、「18歳以上のこどものみを持つ世帯」が中心となる構造となっている。



■ 介護の状況

介護の状況については、全体で「いない」が 80.5%と大半を占めており、現時点で介護に関わっている割合は「同じ世帯にいる」が 7.5%、「同じ世帯以外にいる」が 9.8%と限定的である。

年代別では、50歳代以降で介護負担が急増する傾向が見られる。50歳代では「同じ世帯以外にいる」の介護が 19.0%と約20%に達し、仕事と介護の両立が課題となる世代であることが伺える。また、70歳以上では「同じ世帯」での介護が 16.0%となり、高齢世帯内でのいわゆる「老老介護」の進行を示唆する結果となっている。

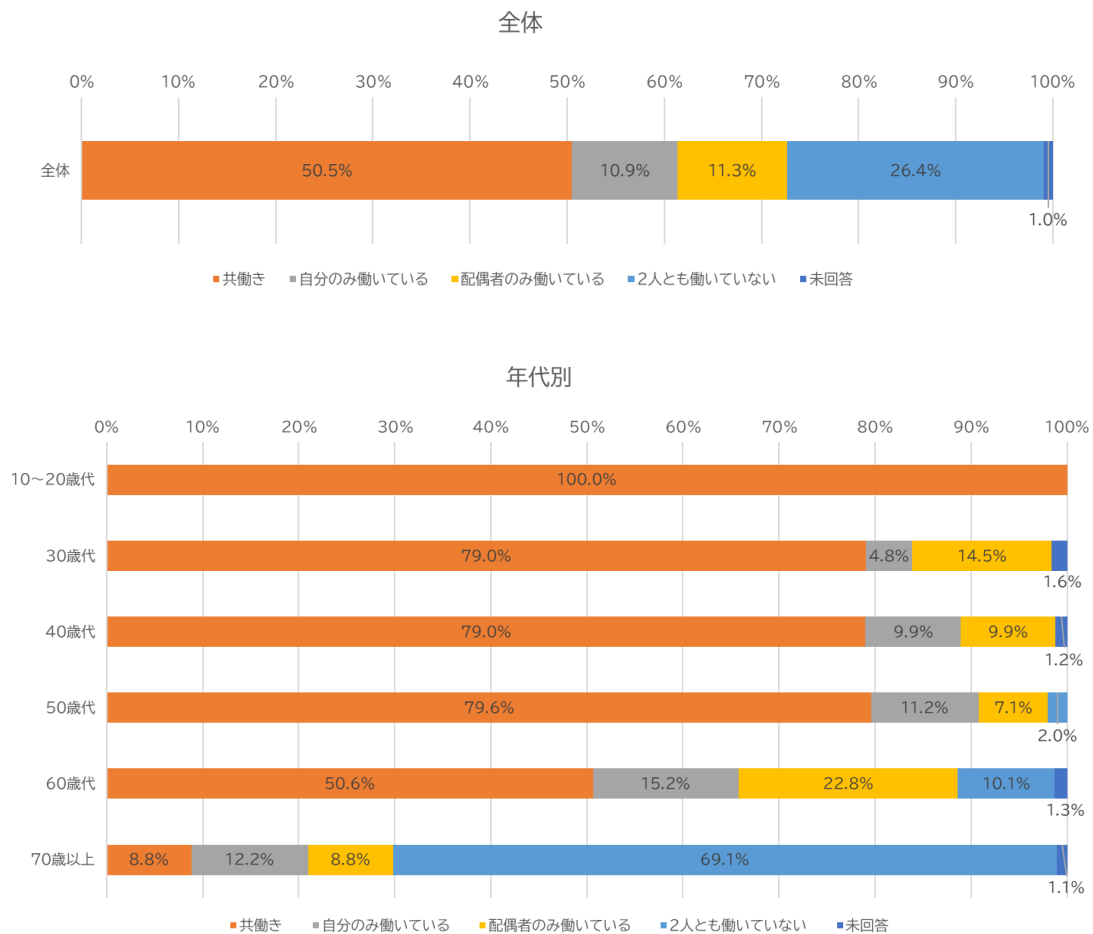


■夫婦の働き方

全体では「共働き」が 50.5%と過半数を占めた。

年代別では、10～50歳代までは共働き世帯が約80%前後と高い水準を維持している。しかし、60歳代では共働き率が 50.6%へ低下し、70歳以上では「2人とも働いていない」世帯が 69.1%と急増する。

このことから、現役世代は共働きが定着している一方、高年齢層ではリタイア期への移行が顕著に現れる結果となった。

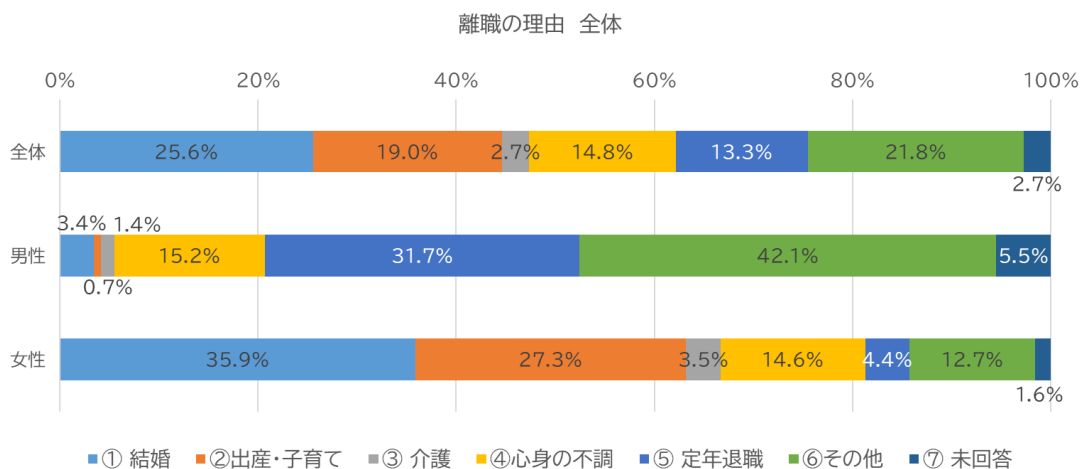
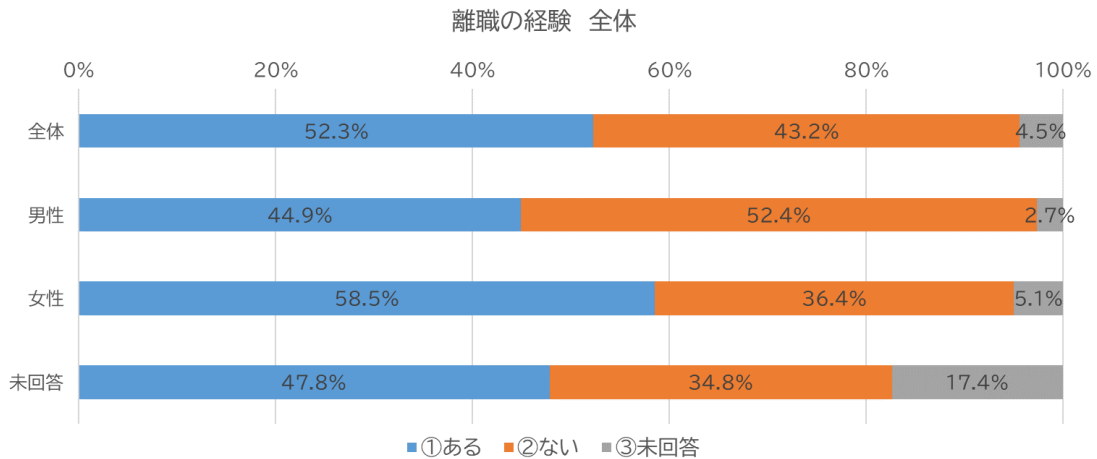


■ 離職の経験

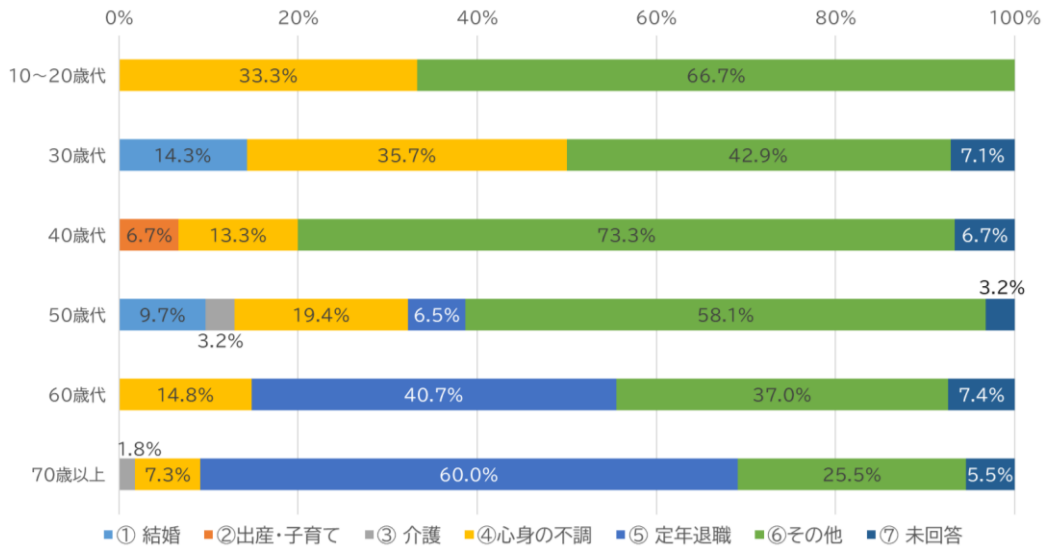
離職経験については、全体で 52.3%が「ある」と回答しており、過半数に上る。男女別では、女性が 58.5%と男性 44.9%を 13.6 ポイント上回り、女性の方が離職を経験しやすい傾向にある。

離職理由には男女差が見られ、女性は「結婚(35.9%)」や「出産・子育て(27.3%)」が上位を占め、家庭環境の変化が主因となっている。対して男性は「定年退職(31.7%)」が最も多く、次いで「心身の不調(15.2%)」が続く結果となった。特に30歳代男性では「心身の不調(35.7%)」が最多となっている。

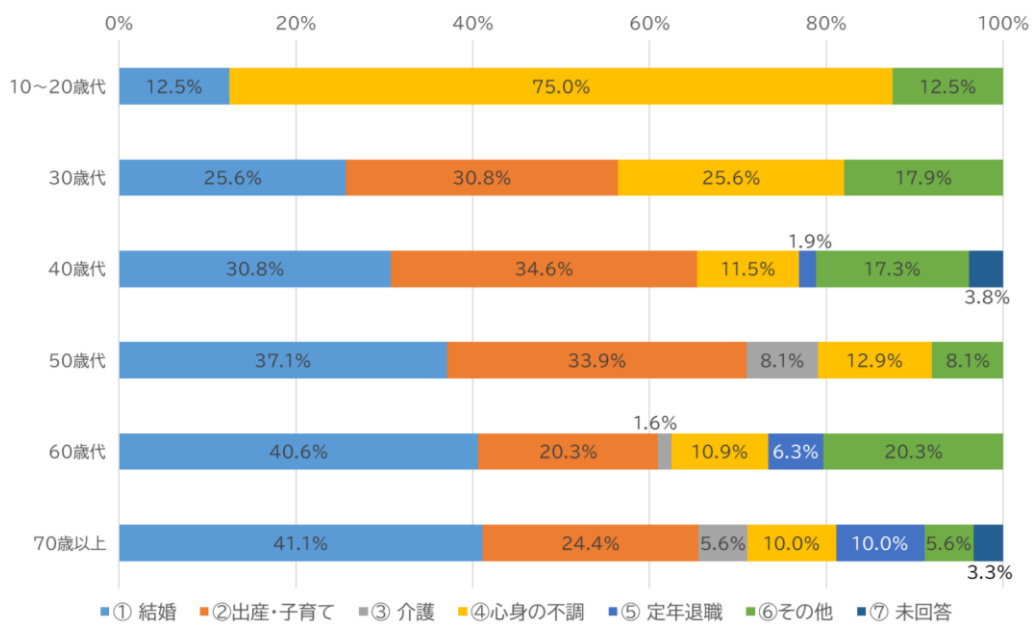
離職理由を年代別に見ると、男性は、10～20歳代、30歳代で「心身の不調」や「その他」の割合が高い。60歳代以降は「定年退職」が割合として高くなっている。女性は、全年代と通して「結婚」「出産・子育て」による離職の割合が高く、家庭の事情が主な離職要因となっていた。



離職の理由 男性年代別



離職の理由 女性年代別



■ 家族構成

全体の状況としては、「二世世代(親・子)」が 49.1%と約半数を占めている。次いで「夫婦のみ」が 32.0%、「一人暮らし」が 9.3%と続いている。

年代別では、10歳代～50歳代までは「二世世代(親・子)」が主流であり、特に子育て世代にあたる 40歳代では 83.5%に達している。しかし、60歳代を境に構成が逆転し、60歳代では「夫婦のみ」が 50.5%、70歳以上では 52.4%と半数を超え、こどもの独立による世帯の小規模化が顕著となっている。また、「一人暮らし」は 10～20代(14.8%)と 70歳以上(12.0%)で相対的に高く、若年層の自立と高齢層の単身化という両端の傾向が示されている。

